

2002年7月の東北地方の天候

【7月の特徴】

- ・梅雨前線と台風第6号による記録的な大雨
- ・2つの台風が相次いで本州に上陸。三陸沖を北上

(1) 概況

梅雨前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く、特に10~11日にかけては、梅雨前線と台風第6号の接近・通過により7月として記録的な大雨となり、各地で大きな被害が発生した。また、13~16日にかけては梅雨前線と台風第7号の影響により各地で大雨となった。梅雨明け後は、太平洋高気圧に覆われ概ね晴れたが、東北太平洋側では湿った東よりの風の影響で朝晩を中心に曇る日が多かった。

東北南部では7月23日頃、東北北部では7月25日頃梅雨明けしたとみられる（ただし、この梅雨明けの時期は暫定値である）。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部でかなり高い。降水量はかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。

注）気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については3ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、2ページ目下段の脚注を参照して下さい。

(2) 天候経過

上旬： 梅雨前線や北上した台風の影響で曇りや雨の日が多かった。特に10~11日にかけては活発化した梅雨前線と台風第6号の接近・通過により、東北太平洋側では7月として記録的な大雨となり、各地で山・がけ崩れや洪水・浸水害、交通障害など大きな被害が発生した。

なお、5日に東北太平洋側の日照不足に関する気象情報を発表した。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

中旬： 梅雨前線や台風第6号、第7号の影響で曇りや雨の日が多かった。14日には秋田県で山・がけ崩れが発生した。また、19~20日にかけては、太平洋高気圧の縁辺を回って暖かく湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、各地で雷雨となった。

平均気温は高い。降水量はかなり多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

下旬： 旬のはじめは梅雨前線の影響で曇りの日が多かった。梅雨明け後は、太平洋高気圧に覆われ概ね晴れて暑かったが、東北太平洋側は湿った東よりの風の影響で朝晩を中心に曇りとなる日が多かった。

平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で平年並。日照時間は平年並。

本件に関する問い合わせ：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 月統計値の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の3位まで。ただし、白河の月降水量は統計期間が短いため1位に該当した場合のみ示す。)

月降水量多い方からの極値・順位更新

順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最大(mm) (年)	統計開始年	平年値(mm)
2位	大船渡	375.0	402.0 (1999)	1964	170.3
	新庄	323.0	423.0 (1991)	1986	185.6
	八戸	291.5	296.6 (1947)	1937	117.1
	盛岡	382.0	388.3 (1944)	1924	165.7
	石巻	314.5	397.0 (1980)	1988	131.0
3位	仙台	359.5	444.5 (1980)	1927	159.7
	福島	341.5	350.8 (1941)	1890	144.8

月間日照時間少ない方からの極値・順位更新

順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最小(h) (年)	統計開始年	平年値 (h)
1位	青森	96.2	96.3 (1965)	1956	177.3

(4) 月気候表 (2002年7月)

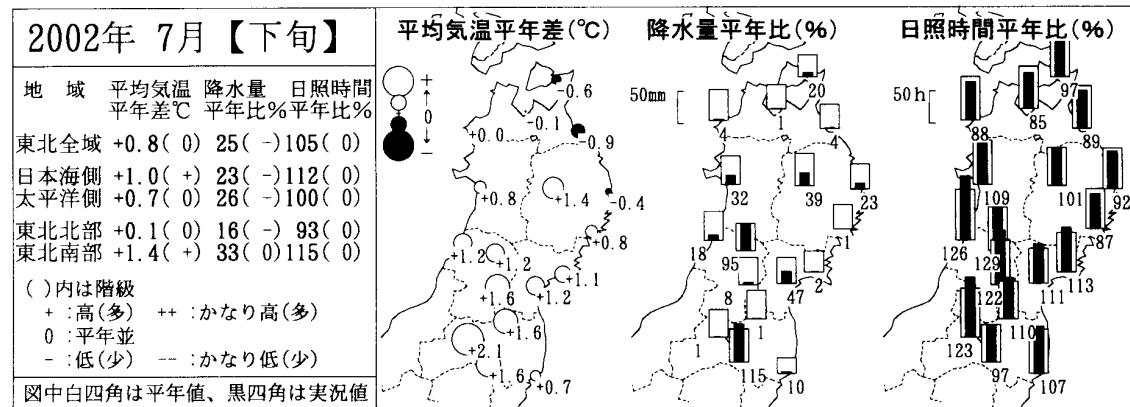
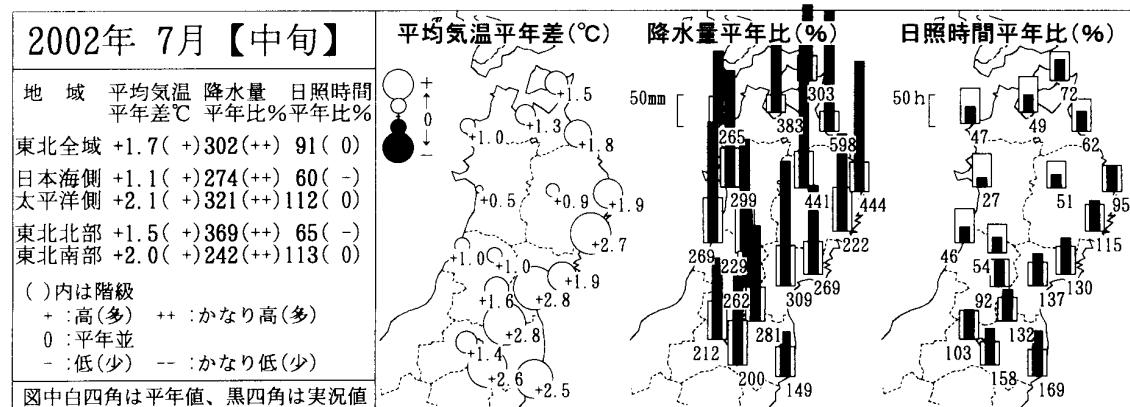
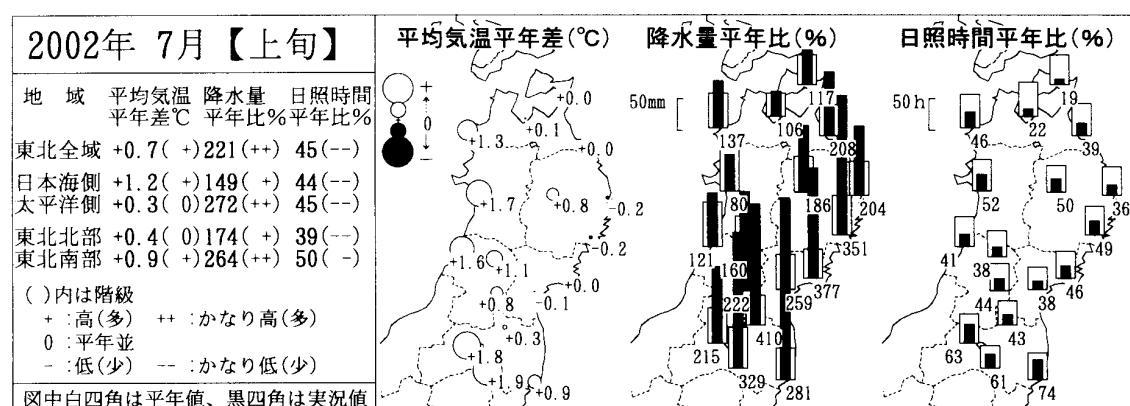
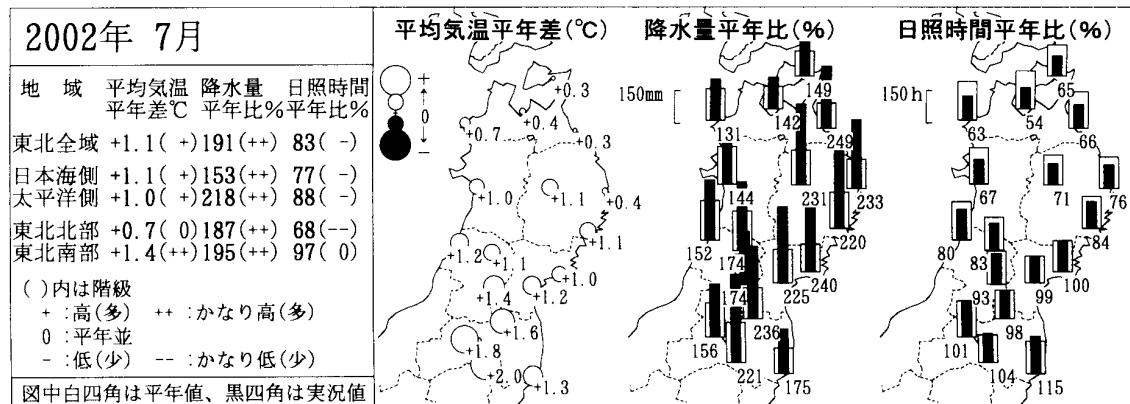
地 点	月平均気温(平年差)			月降水量(平年比)			月間日照時間(平年比)		
	階級	mm	%	階級	h	%	階級		
青 森	21.5 (+0.4) 0	145.5 (142)	+	96.2 (54)	*				
深 浦	22.0 (+0.7) +	191.0 (131)	+	111.4 (63)	*				
む つ	19.9 (+0.3) 0	183.0 (149)	+	98.3 (65)	*				
八 戸	20.5 (+0.3) 0	291.5 (249)	+*	110.7 (66)					
秋 田	23.8 (+1.0) +	256.0 (144)	+	115.7 (67)					
盛 岡	22.9 (+1.1) +	382.0 (231)	+*	101.9 (71)					
大船渡	22.1 (+1.1) +	375.0 (220)	+*	125.3 (84)					
宮 古	20.4 (+0.4) 0	325.0 (233)	+*	113.7 (76)					
仙 台	23.3 (+1.2) +	359.5 (225)	+*	126.0 (99) 0					
石 巍	22.3 (+1.0) +	314.5 (240)	+*	147.6 (100) 0					
山 形	24.6 (+1.4) +	250.0 (174)	+	144.4 (93)					
新 庄	23.4 (+1.1) +	323.0 (174)	+	127.8 (83) 0					
酒 田	24.4 (+1.2) +	283.5 (152)	+	144.7 (80)					
福 島	25.1 (+1.6) +	341.5 (236)	+*	130.1 (98) 0					
若 松	25.2 (+1.8) +*	249.0 (156)	+	170.4 (101) 0					
白 河	24.0 (+2.0) +*	412.5 (221)	+*	135.2 (104) 0					
小名浜	23.0 (+1.3) +	210.5 (175)	+*	175.9 (115) 0					

× : 欠測) : 欠測日を含む --- : 現象なし

階級は + : 高い(多い) 0 : 平年並 - : 低い(少ない) * は「かなり」を表す

注)階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000年の30年間において出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(5) 2002年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



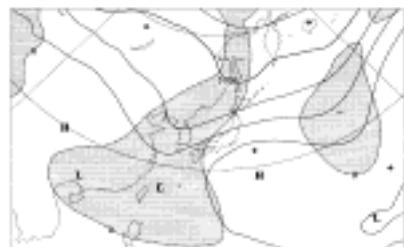
(6) 2002 年 7 月の主な台風

7 月上・中旬は太平洋高気圧の西への張り出しが弱く、台風は太平洋高気圧の縁に沿って北西に進み南西諸島に接近することが多かった。台風第 5 号は南西諸島を通過した後、6 日には日本海に進んで温帯低気圧に変わった。台風第 6 号、第 7 号は、南西諸島付近で転向した後、偏西風に乗って本州南岸沿いを北東に進み関東地方に上陸後、三陸沖を北上した。

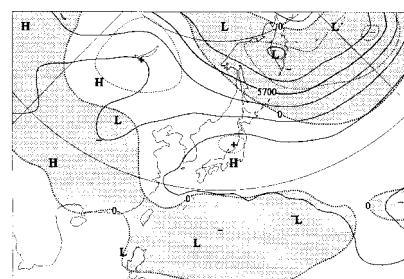
東北地方は梅雨前線や台風第 6 号の接近・通過により記録的な大雨となり、各地で大きな被害が発生した。

下旬は太平洋高気圧の西への張り出しが強まり、台風第 9 号は太平洋高気圧の南側の縁に沿って北西に進み、黄海で熱帯低気圧に変わった後華北に上陸した。

なお、7 月に 2 個以上の台風が上陸したのは、1972 年、1993 年以来である。



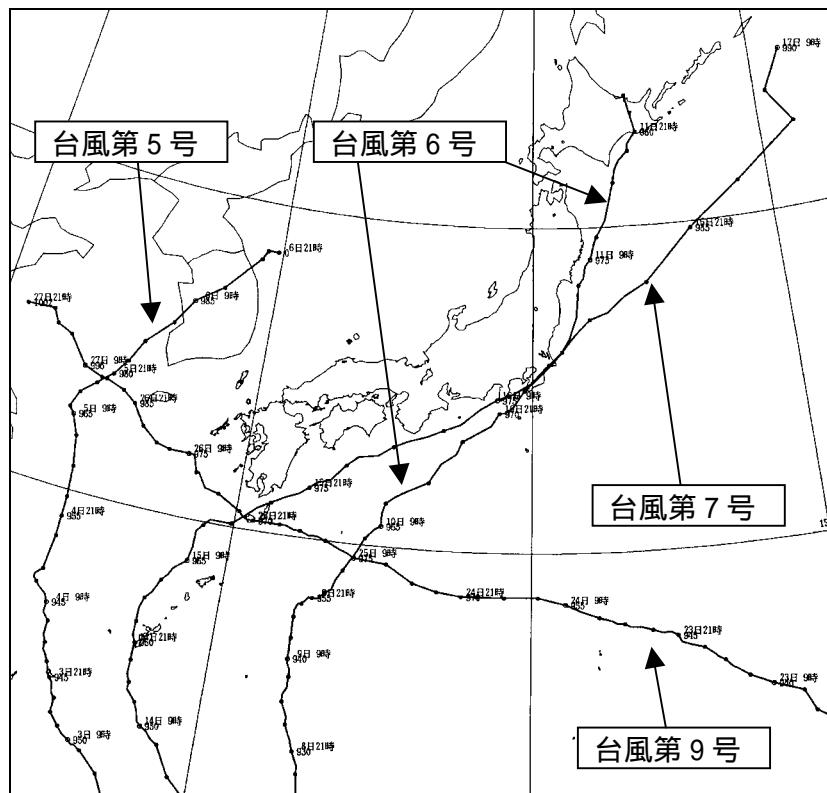
2002 年 7 月上旬の 500hPa 高度場



2002 年 7 月下旬の 500hPa 高度場
実線は高度(m)、間隔 60m。破線は偏差 (m)、間隔 60m。陰影部は負偏差域

今年と平年の月別の台風発生数と上陸数 (2002 年 7 月 31 日現在)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年	1	1			1	3	5						
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年							2						
	平年						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6



2002 年 7 月の主な台風の経路図